

NHKスペシャル

シリーズ スペース・スペクタクル

第1集 宇宙人の星を見つけ出せ

2019年6月23日(日)午後9:00~9:49(総合テレビ)



NASAの最新宇宙望遠鏡テスは、「第2の地球」を探している・CG

2019年は宇宙探査の最新成果が続々もたらされる「宇宙イヤー」。2月、はやぶさ2は未踏の小惑星への着陸に成功し、4月には日米欧の研究チームがブラックホールの直接観測に成功。3回にわたってお送りするNHKスペシャルのシリーズ「スペース・スペクタクル」では、櫻井翔さんが宇宙へナビゲート。最新科学をもとに“驚きに満ちた宇宙の姿”、そして“宇宙と私たち生命の知られざる絆”を描く。

第1集のテーマは「宇宙人」。実はいま、多くの天文学者が「宇宙人はいる」と信じている。おとし、太陽系の外から飛んできたと見られる天体が地球に急接近し、太陽系外へと飛び去ったが、ハーバード大の教授らは宇宙人が作った“宇宙船”だと唱えている。いま、そんな「宇宙人の星」を探す取り組みが、世界各地で進められている。では、どこにいるのか？

去年稼動したばかりの宇宙望遠鏡TESS（テス）は、かつては全く注目されなかった地味な星が最有力であることを明らかにした。太陽の10分の1ほどの大きさの目立たない赤い星、その周りを回る惑星だ。赤い星に常に同じ面を向けているため、この星の半分は永遠に昼、半分は永遠に夜だ。昼半球では大瀑布のような雨が降り、夜半球は極寒の氷が覆う。こんな過酷な星に宇宙人がいると言うのだが。果たして「宇宙人の星」は見つかるのか？宇宙人研究の最前線をご紹介します。

番組ナビゲーター：櫻井翔、和久田麻由子アナウンサー

第2集「宇宙の黒幕」ブラックホールを見よ！

この4月、日米欧の科学者チームが、史上初めてブラックホールを直接映像で捉えることに成功した。最新の観測から、ブラックホールの常識が覆されつつある。宇宙を一変させたブラックホール。その一大スペクタクルを、百億年の時を越え映像化し、私たち生命と深く繋がるブラックホールの実像を描く。

第3集「地球生命のルーツ」を追え！

人々の胸を熱くさせる『はやぶさ2』の宇宙冒険が続いている。4月に小惑星リュウグウに「弾丸」を衝突させ、10mの人工クレーターを作り出すことに成功した。クレーターによりむき出しになった小惑星の内部には、「生命の材料」＝有機物があると期待されている。この有機物こそ「なぜ地球に生命が誕生したのか？」という壮大な謎を解く鍵だ。その最新成果から、生命誕生への道を開いた、“太陽系を揺るがす大スペクタクル”を描く。

タイトルは仮です。